

2008. 7. 8

CONTENTS



- 2 IUCNに勧告案を提出
- 3 ボン条約 勧告7.5とは
- 4 第3回じゅごんの里ツアー報告
- 5 中村征夫写真展に参加して
- 6 ジュゴン・イラスト写真展報告
- 7 ジュゴンを守る仲間・スタッフTシャツ

去る6・8の沖縄県議選は、ついに与野党逆転の大勝利を納めた。沖縄の政治動向が国政に影響を与えるのは必然だが、支持率が低迷する福田政権は、それどころではないようだ。また、6・26普天間爆音訴訟で那覇地裁は、原告の爆音被害を認め、国に慰謝料の支払いを命じた。これも流れを変える勝利といえるが、その一方、国に対しては基地被害の軽減義務を免責する不可解な判決が下されたのであった。国と司法が米国軍事政権に支配され結託している臆病な判決としては、さもありませんかと思う。「普天間基地は危険だから、一日も早く辺野古代替基地建設を進めるべきである！」との論拠にするであろう。しかし、日本国民がバカにならない限り、福田政権はやがて終わる。米政権も代わる。その流れに仲井真県政がどう対応するのか？楽しみにになった。

「いざ行かん、バルセロナへ！」SDCC 共同代表 海勢頭 豊

だがそこで我々SDCCは決して油断してはならない。「2010年を国際ジュゴン年に制定する」大きな目的を持って、10月のIUCNバルセロナ大会に参加する。われわれは必ずや目的を達成し、辺野古の基地建設を阻止し、平和の象徴であるジュゴンと仲良く生きる未来を創造しなければならないと決意するものである。今日まで戦争政策が破壊してきたもの、それは地球の自然環境だけではなく、人間にとって最も大切な精神環境の破壊が招いた不幸は、すべて武力や戦争を正当化し、許してきた人間の臆病が原因であった。それによって今日の人類は、絶滅の危機を迎えつつあるのである。

このような時だからこそ、我々SDCCは困難を乗り越えるため、団結しなければならない。そこで、私はスペインに行く前に「マブイぐみコンサート」を名護（9月17日市民会館）と那覇（9月19日てんぶす那覇）で行うことにした（詳細は8面）。みんなでジュゴンパワーを身につけ、浄化力を高めて、いざ！バルセロナへ！辺野古の竜宮の海では、ジュゴンがわれわれを見守っている。

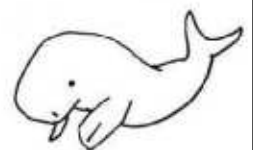
[WEB] <http://www.sdcc.jp/>

[EMAIL] info@sdcc.jp



1年前大浦湾に沈めた泡盛を引き上げました

★かんたんスペイン語講座★
「ジュゴンを守ろう！」は



¡Salvamos los dugongos!
サルバモス ロス デュゴンゴス



英語では
Let's save the dugong !



IUCNに勧告案を出しました！！



(勧告案は別紙同封)

6月6日に勧告案「2010年国際ジュゴン年と沖縄ジュゴンの保全」をIUCN（国際自然保護連合）決議作業部会に提出しました。SDCCの呼びかけで、WWFジャパン、日本自然保護協会、エルザ自然保護の会、日本湿地ネットワーク、日本雁の会が共同提案者になりました。過去2回の沖縄ジュゴンの保護勧告（2000年ヨルダン・アンマン、2004年タイ・バンコク）をふまえた三度目の勧告案です。決議作業部会は8月5日までに10月総会（5日～14日）に提案する決議案、勧告案を絞り込みます。

私たちの勧告案は「2010年を国際ジュゴン年」、「『移動性野生動物種の保全に関する条約（CMS）』のジュゴン保護覚え書に関係国は参加を」、「日米の共同アセスメント」の3点を柱にしました。2004年IUCN世界会議以降、ジュゴン保護ネットワークの広がりをふまえたものです。

2005年オーストラリア、タイ両政府がCMSをふまえたジュゴン保護と管理の議論を20カ国の参加で行い、06年、07年の議論をつうじて覚え書きを採択しました。06年には東京、沖縄でアジア太平洋ジュゴン保護ネットワーク・シンポジウムを開催し、日本、タイ、ベトナム、フィリピンのNGO、研究者、市民が交流を深めました。

また、2004年IUCNでは「新基地建設は日本の問題だ」と逃げていた米国政府も、ジュゴン訴訟で新基地建設の当事者であることを認めるなど大きな変化がありました（2007年結審）。国防総省は08年1月の敗訴判決をふまえて、沖縄の海草藻場調査とジュゴンの文化的意義を調査することを明らかにしました。日米の共同アセスメントが実施できる条件が整ってきています。米国の環境アセスメントはゼロ・オプション（建設計画の撤回）を含むなど、環境保護を重視する制度になっています。首都圏（7月24日事務所）や関西（7月12日中ノ島公会堂）のIUCN勧告案の学習会にぜひ参加してください。



今年のIUCNはパルセロナ



IUCN（国際自然保護連合）は1948年に設立され、現在84国家、111政府機関、874NGO、35団体の会員と約1万人の科学者で構成され「生物多様性の危機を救い」「健全な生態系をめざす」世界最大の自然保護団体です。

4年に一度開かれる総会（世界自然保護会議）では役員と予算、国際的な自然保護の主要な課題を議論します。第4回世界自然保護会議が今年10月5日から10日間、スペイン・パルセロナで開かれます。前半の自然フォーラムにはサポーターを含めて8000人が参加します。SDCCはブースを借りて、海勢頭バンドの歌とエイサー、写真展やグッズ販売、チラシ配布、署名で沖縄ジュゴンの保護を訴えます。2010年国際ジュゴン年やジュゴン保護のネットワークを進める学習交流会もします。

後半は会員が勧告案や決議案について論議します。関係者を中心に行うコンタクト・ミーティング、前回は日本の外務省、環境省（課長）、米国の国務省、NGO、学者研究者が、本部から派遣された司会者の下で論議を行いました。この議論をふまえて、全体会場で採択が行われます。

『移動性野生動物の保全に関する条約 勧告7.5』とは

多くの動物は餌を得て生存し、繁殖するために国境を越えて生活しています。このような移動性野生動物種を保護することが関係各国にとって重要な責任となっています。移動性野生動物種の保護に関する条約（通称「CMS」や「ボン条約」）は1983年11月に施行され、加盟国は絶滅の恐れある種の厳格な保護や管理の協定をむすび、共同研究を進めています。勧告7.5はボン条約第7回締約国会議（2002年9月）で採択されたジュゴン保護のための生息域各国間協定のことです。

この協定では「生息域を持つすべての国に、互いに協力し、必要に応じて、種の生息域全体にわたる保護と管理のための理解と行動計画の覚え書きを作成することに積極的に参加すること」を勧めています。日本はボン条約の未締結国（捕鯨問題があるので）ですが、この協定は未締結国も含めて生息域をもつすべての国に呼びかけています。そして、技術的・資金的支援を呼びかけています。2005年にはオーストラリア政府とタイ政府が呼びかけて20カ国が立ち上がりました。日本政府がジュゴン保護の立場に立つのであれば、直ちにこの覚え書きに参加することを求めます。

沖縄県議会選挙で野党が多数派



6月8日沖縄県議会選挙が行われました。与党（自民・公明・無所属）22議席、野党（社民・共産・民主・社大・そうぞう・無所属）26議席と、野党が大勝。琉球新報による事前の政策調査では、「辺野古大浦湾への基地移設」について、野党当選者のうち16人が「県外への移設」、9人が「基地撤去」を求めています。48議席の過半数の25人が県内移設に反対している中で、日米両政府のキャンプシュワブ沿岸案はもちろん仲井真知事の沖合い移設案などはますます困難になっています。投票率が57.82%と過去最低であったのは、自民党や保守支持層が高齢者医療制度に怒ったことは周知のことですが、米軍再編推進法にもとづく露骨な「アメとムチ」に対する怒りがあつたことも見ておかなければならないと思います。今後、沖縄県議会への働きかけが重要になってきます。



毎週土曜の晩に続けられているキャンプシュワブ前の「サイレント・キャンドル」にツアー参加者みんなが参加しました。



新基地建設反対の思いを込め、ろうそくに火をともします

第3回じゅごんの里ツアー報告



首都圏

6月27日～29日、東恩納琢磨さんの「じゅごんの里」を訪れるツアーを開催しました。1日目は、泡盛「じゅごんの里」を作っている「龍泉酒造」見学。2日目は船で大浦湾に繰り出しました。船の操縦は東恩納琢磨さんと、ダイバーで海中カメラマンの棚原盛秀さん（ジュゴンネットワーク沖縄）にお世話になりました。3日目はフリーライターの浦島悦子さんのご案内で、大宜味村にある平南（へなん）川をトレッキング。ヤンバルの海と山を満喫しました。関西と首都圏からツアーに初参加された方の感想をいただきました。

青い空、碧い海が目の前にひらけた“ジュゴンの見える丘”に立ち、こちよい風に吹かれながら、案内して下さったスタッフの方の「海草の食み跡が見つかる海岸です。このどこかに生息していることは確かです。必ず息つぎに浮上してくるはずなんです」という説明を聴いて、ジュゴンの姿を一生懸命さがしていました。この海のどこかで泳いでいる「ジュゴンの毎日」を、どれだけ想像できるでしょうか。（米軍基地が必要、もっと道路が、ダムが、そんな社会に私はいます。やっぱりこの社会を変えたいと思いました。

珊瑚礁の海、やんばるの森、滝、夜の星空、宴会、泡盛、キャンドル行動などなど、お世話くださった大変楽しいスタッフのみなさまありがとうございました。

沖縄大好き 山本まり子

現地参加者を含め総勢20名が参加した「じゅごんの里ツアー」。私は2日目朝から合流しました。大浦湾出発後すぐ「ウミガメだ」という声が…。一瞬でしたが海面に顔を出し、私たちを歓迎してくれたようです。クマノミやアオサンゴを観察したり、大海原に浮かぶ無人島・平島に上陸したり…。夕方は“ジュゴンが見える丘”へ出掛け、ジュゴンの大好物である海草を確認。姿こそ見られませんでした。遠浅で美しいエメラルドグリーンの海にジュゴンの鼓動を感じることができました。夜は瞬く星や天の川を眺めたり、翌日の沢歩きでは雨が降りしきる幻想的な滝に出会うなど、沖縄の手つかずの自然にたっぷり触れ、味わい深い貴重な体験ができました。

元村玲子

ジュゴンの見える丘



後ろにジュゴンが写っていないかなあ…

アオサンゴ群落



熱帯魚がいっぱいました。

アオサンゴのスケールの大きさに圧倒されました

関西

報告

大浦湾調査

今回のツアーでは、主にシュノーケリングで大浦湾の自然を体験することを目的としました。大浦湾が、ジュゴンの棲む海であると共に、多くの生き物たちの楽園であること。この手つかずの自然を守ることがジュゴンの棲む海を守ることであることを実感してもらいました。

最初のポイントは、「クマノミ城」です。大浦川の河口に近く、キャンプシュワブの崖に近い場所です。水深も2～3メートルなので、シュノーケリングでも十分クマノミ城を観察することができます。しかし、この日は、クマノミ城付近の海水が若干濁っていたので見にくかったですが、水面からもクマノミたちを確認することができました。ボートからシュノーケリングしてきた皆さんも「あっ！クマノミが見えた！」とあちこちで歓声が上がっていました。

次のポイントは、アオサンゴです。大浦湾でも沖にあるポイントで、うねりの影響で海面がばしゃばしゃしていました。クマノミ城に比べて透明度も良く、水面からアオサンゴを確認することができました。

新基地建設に伴って、クマノミ城やアオサンゴが大きな影響を受けること、そしてジュゴンが棲める海でなくなることが明白です。大浦湾の自然を守ろう！と声をあげていきましょう！

三村昭彦

☆中村征夫写真展に参加して☆

日本の水中写真家の第1人者で、ルポ「全東京湾」や写真集「白保SHIRAHU」などの著者である、中村征夫さんの写真展「命めぐる海」

一都会の海から聖地の海へ（4/29～5/11）が日本橋三越ギャラリーで開催されました。

SDCC首都圏として、3月にはじめてジュゴンイラスト・写真展を開催しましたが、まだまだ手探りで至らない点・不十分点多々ありました。プロの写真家の写真展から何かヒントが得られればと思い参加しました。

私が参加した日は、雨模様の午前中でしたがすでに多くの入場者で、すでにじっくり写真を楽しむ状況ではありませんでした。私が感じたのは、写真のもつ迫力、大きく引き伸ばした画像の訴える力を感じました。また1枚1枚の写真にマッチするキャプションが重要だと思いました。写真を見ただけで自分が現場（水中）にいる臨場感を味わえる工夫が必要だと思いました。

今後もジュゴンイラスト・写真展を各地で開催し、多くの方々に沖縄のジュゴン保護の重要性を知っていただきたいと思います。



写真集にサインされる中村征夫さん

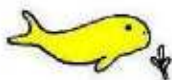
三村昭彦

お知らせ

学習会/世界の声でジュゴンを守ろう

大阪

今年10月にスペイン・バルセロナで開催される、IUCN第4回世界自然保護会議で、SDCCは「2010年国際ジュゴン年」の勧告採択を目指しています。勧告案の内容は？その意義は？をわかりやすく説明する学習会を開催いたします。また、6/27-29に実施した第3回「じゅごんの里ツアー」の報告も、あわせて行います。スタッフからの報告のほかに、ツアー初参加者からの報告も乞うご期待。ヤンバルの海と山の素晴らしさに触れたフレッシュな感動が伝わるとと思います。



ご参加お待ち
しています

日時：7月12日（土） 19：00～21：00（18：30 開場）
場所：大阪府中之島中央公会堂 第4会議室 資料代：300円
（地下鉄・京阪淀屋橋駅下車） ★申込みは不要です

じゅごんの里ツアー-PHOTOコーナー



キャンプシュワブ前



平南川の沢歩き



平島でランチ

2004年11月
から続いている
サイレントキャン
ドル



海底から引き
上げた泡盛
まるやか〜♥



おばあ朝市で
お買い物

報告

ジュゴンの海の写真展in大阪Part2

6月1日、大阪の豊中駅前にある「とよなかすてっぷ」でジュゴン・イラスト写真展を開催しました。駅前ということで、駅でジュゴンちゃんも登場してチラシを配布したところ、親子連れの方も何人か来てくれました。子どもがいるとその場が和み、楽しいひとときとなりました。またかわいいジュゴンイラストも書いてくれました。

お昼からは南山大学の目崎さんの楽しいお話に、また来たいと言ってくださる方もあり、有意義な写真展となりました。これを機にまた多くの人に知ってもらえるような写真展を開催したいです。今回は場所もよく次に繋がるいい写真展でした。

上田千鶴



大浦湾の生きもの 目崎茂和さんのお話から

松島洋介

昨年9月に大浦湾で発見されたアオサンゴの群落は、横30メートル縦50メートルの巨大なもので、高さは最大で18メートルにもなるとのこと。特に高さでは石垣島白保を大きくしのぐ大群落です。アオサンゴの特徴はまず美しい色。サンゴは、硬い石灰質の骨格の中に入って生活しています。サンゴは体内に共生している褐虫藻から栄養をもらって生きていますが、水温が30度以上になると褐虫藻が、逃げ出してしまいサンゴは白くなります(白化現象)。サンゴの色は褐虫藻の色なのです。ところが、アオサンゴは青い骨格を持っていて、とても美しい。ワシントン条約で規制されるまで、ハワイの空港などでおみやげに売っていたそうです。

アオサンゴのもうひとつの特徴は産卵の方法。普通のサンゴは卵と精子が出会うと受精卵は、波間を漂い、潮の流れに乗って遠くへ運ばれます。アオサンゴの場合は、卵からかえった幼生がしばらくの間、親のからだにくっついた後、近くの海底に着地して新しい群体をつくるそうです。これが繰り返されてアオサンゴの群体が生まれるそうです。

沖縄の海でもサンゴはオニヒトデの食害で大打撃を受けています。大浦湾でもアオサンゴのまわりのサンゴは多くのものが死滅しているのです。アオサンゴがオニヒトデの食害を受けにくいのは、その形状からです。オニヒトデが胃袋を露出して食べようとしても、板状・枝状ではなかなか食べることができません。これが群落がのこったひとつの原因と考えられるとのこと。

サンゴはオニヒトデの卵を食べています。赤土の流入などで弱ったサンゴがオニヒトデの卵を食べる量が減る。オニヒトデのメス1個体は数千万粒もの卵を産むので被食率が1%減ったとしても、すごい数のオニヒトデが育つことになります。だからこれ以上環境が悪化すれば残ったアオサンゴやユビエダハマサンゴもどうなるかわかりません。基地建設などもつてのほかです。

身振り手振りをまじえながら、大きな視野から、自然の中での生きものつながりについて語っていただきました。

首都圏

ジュゴンイラスト・写真展&目崎先生講演



6月7日・8日の2日間、中野ZERO美術ギャラリーで開催。スタッフはお揃いのニューTシャツでお出迎え。今回は、会場作りに工夫を凝らし、大浦湾の貴重な写真を大きくするなど、更に見やすく展示。IUCNとは? のコーナー、折り紙や三線の体験コーナー、紅型着物の試着コーナーも用意。さらに東恩納さんから送ってもらった大浦湾の砂と貝殻で会場は磯の香りが漂い、BGMの沖縄民謡で沖縄気分満載となりました。

7日には、南山大学の目崎先生をお招きし、大浦湾のアオサンゴの調査について講演いただきました。講演前に、今回も三多摩歌舞団のエイサー三線隊が4曲を演奏してくださり、一層盛り上がりました。歌舞団の皆さん、ありがとうございました。

目崎先生のお話は、いつもパワフル。身振り手振りで、ちょっと脇道にそれたりと、とても楽しいお話でした。アオサンゴ群落のすばらしさが伝わってきます。偶然にも、大浦湾の調査に同行された鈴木倫太郎さんも参加くださり、質疑に詳しく答えていただきました。鈴木さんは、SDCCの連続セミナーの講師もした方です。

新たに会員になってくれた方、スタッフになってくれる方、前回の参加者からイラストと切り絵を寄せてくださるなど、回を重ねるごとに広がりを感じます。秋には、湘南で第3回目を開催する予定です。お楽しみに!!

矢敷克子

ジュゴンを守る仲間たち



沖縄・辺野古の状況を知った時、何か出来ることをしたい！そう思いました。もっと伝えていきたいくて、今年の4月に現地に行ってきました。毎日毎日、海上での阻止行動や浜で座りこみをしている人たちと、また、全国から訪れてくる人たちと出会い、交流し、たくさんのことを学ばせてもらいました。ゴムボートで大浦湾を巡ったとき、キラキラ輝くエメラルドグリーンの海に感動しました。ジュゴンがゆったり泳ぎ、さんご礁で育まれるたくさんの生き物たち、ただ、この“宝の海”を残したいそう思いました。しかし、そこには巨大なリゾートホテルが建ち、米軍基地・キャンプシュワブが広がっていました。さらに新しく基地が造られようとしているのです。人間の欲望と自然の姿のギャップの大きさに愕然としました。

1つ1つできることをして行こう！

私は何をどう伝えていけるだろう？「基地が広がっているという厳しい現実」「新しい基地が造られようとしていること」「海を守りたいと阻止行動を続ける人たちのこと」「命こそ宝と、深く深く平和を願う思い」「ジュゴンを守ろう、保護区をつくろう！ということ」伝えたいことはいっぱいある！

1つ1つできることをしていこう！

辺野古の白い砂浜には、基地との境界線に有刺鉄線が張り巡らされています。そこには「基地はいらない、戦争は終わりにしよう、、、」というメッセージが書かれた色とりどりのリボンが結ばれています。今、平和のリボンを届けようと呼びかけています。少しずつ集まってきました。辺野古の浜に結ばれたリボンが海風にはためいて、みんなの平和を願う思いが世界中に広がっていきますように、そんな思いを込めています。

5月に高津宮で開催されたフェアトレード祭りでブース出店をしました。そこで、SDCCさんのグッズ販売をさせて頂きました。

ジュゴンのマスコットやハガキを並べ、海の写真も飾りました。海の写真にふと足を止めてくださる人、ジュゴングッズをかわいい～と買ってくださる人、そんな方達にチラシや資料を配り、思いを伝えることが出来ました。話を聴いて親戚一同の名前を署名用紙に書いてくださった人、学校でもチラシを配るわーとたくさん持って行ってくれた人、そんな出会いがとっても嬉しかった。

沖縄のおばあは「あの戦争のときも、逃げ隠れしながらも、この豊かな海があったから子どもや孫を育てることができた」といいます。ジュゴンのすむ海を守ること、“宝の海”を守ること、それは私たちの未来を守ること。ずっとずっと守っていききたい。池側恵美子

作りました！

じゅごんの里でハイポーズ！

スタッフTシャツ

10月にバルセロナで行われる IUCN 会議に向けて、一致団結、盛り上がって行こ～！とお揃いのスタッフTシャツを作りました。4年前の会議の時にも作り、着ていると背中に書かれた「Save the Dugong in Okinawa」をみて話しかけてもらえた事がありました。今回のデザインは琉球の時代から平和のシンボル、神のつかいとされてきたジュゴン。そのジュゴンの形に似たまが玉が、パワーストーンとして大切にされていたお話からイメージした、まが玉ジュゴンを左胸に、左腕には SDCC のロゴマーク、背中に「Save the Okinawa Dugong」と書いてあります。先月からイベント時に着ていますのでお越しの際は実物を見て下さいね。

じゅごんパワーで IUCN 勧告を持ち帰るぞ～ 小平裕美



本の紹介

「パパッとご飯 しっかりご飯」

女性の社会参加や男性の一人暮らしなどの多くなった昨今、コンビニやスーパーを利用することも多くなってきています。調理済みや半調理食品も種類が多くその上おいしくなっています。しかし、毎日食べると飽きてしまうということも耳にします。料理が苦手と思っている（思い込んでいる）人や、忙しい中で、まとめ買いしている人に、気軽にお料理にトライしてもらい、身の回りにある食材や冷蔵庫にある食材を使ってちょっと目先が変わった、一味違う料理作りができるために利用して欲しい一冊です。

市販の調味料やどこの家庭にもある調味料を使い、できるだけシンプルな料理ができるように心がけました。本書を使って、「おいしい」「料理ってこんなに簡単にできるの」「料理って楽しい」と思っただけなら、こんなに嬉しいことはありません。そしてあなたや家族の健康づくりにつながればと思います。 宮城都志子



本の注文先

〒209-0005
名護市為又 209-5
宮城都志子

電話・FAX 0980-53-1582

〒901-2104
沖縄県浦添市当山3-2-2 (タイヤ館隣)
沖縄県栄養士会

電話 098-942-5311
FAX 098-942-5312

毎号「沖縄の食と生活」を執筆されている宮城都志子さんが本を出版されました。ぜひご注文を！

海勢頭豊 マスイぐみコンサート

- ◆名護公演 9月17日(水) 午後7時～ 名護市民会館中ホール(市役所前)
- ◆那覇公演 9月19日(金) 午後7時～ てんぶす那覇
(那覇市伝統工芸館・牧志バス停前)
- ◆ボーカル・ギター海勢頭豊 ボーカル島田路沙 バイオリン海勢頭愛
- ◆チケット2000円



10月バルセロナに向けた海勢頭豊代表のコンサート♪ ジュゴンの新曲が発表されます。ご賛同おねがいします☆

☆ ボランティアスタッフ 募集 ☆

SDCC では常時ボランティアスタッフを募集しています。ネットでのよびかけ、街頭での宣伝、グッズやイラスト作成、事務所での整理や発送作業など、お手伝いいただける方はぜひご連絡をお願いします！

Editor's Note



平南の滝

今回3度目となった、じゅごんの里ツアー。大浦湾の素晴らしさは勿論のことですが、大宜味村の平南川トレッキングは、心洗われる思いがしました。あこがれの沢歩きができて最高！何より良かったのは、この自然を守りたい、という思いを参加者みんなで共有できたことです。(Y)

ジュゴンちゃんぶるニュース VOL.39 2008年7月8日発行
ジュゴン保護キャンペーンセンター Save the Dugong Campaign Center (SDCC)
Tel/Fax 03-5228-1377 〒162-0815 東京都新宿区筑土八幡町2-2-1
第1千代田ビル301 なかま共同事務所内
○ <http://www.sdcc.jp/> ○ info@sdcc.jp
(関西連絡先) 〒534-0025 大阪市都島区片町2丁目9番21号野口ビル302
TEL/FAX 06-6353-0514

